

### 只見川支流八木沢

1996年7月28日

L1

生活改善センターの脇に車を置いて出発。しばらく林道を歩く。大きな堰堤を過ぎ、徐々に沢との高低差が縮まってきたところで、沢に入る。

F<sub>1</sub>, F<sub>2</sub>, F<sub>3</sub> と直登してゆく。F<sub>2</sub> と F<sub>3</sub> の間にマムシがいたので、石をぶつけて退治する。沢には結構くもの巣がかかっていたので、小枝で払いながら歩く。F<sub>3</sub>10mは右岸を高捲くが、上部の斜面が草付なので、懸垂下降で沢に戻る。

3:1の二俣で左俣に入り、次の二俣で右沢に入る。ナメを登ってゆくと斜面が立ってきて、三ツ又に分かれたナメ滝(ほとんどスラブ)となる。真中の滝を選び、灌木につかまり、時にはフリクションをきかせながら登ってゆく。水が溜れると突起の多い岩場となる。草木がまばらと

なり、只見川対岸の山々がよく見渡せるが、なんとめざしたコルはやや下の方ではないか。少し南にコースがずれたようである。トラバースか直登かと迷ったが、直登して支尾根に取り付き、少しヤブをこいで尾根に出た。(記・

[タイム] 生活改善センター(7:20)→遡行開始(7:30)→ 3:1の二俣(9:30)→尾根(10:40)

### 只見川支流滑沢左俣

1996年7月28日

L1

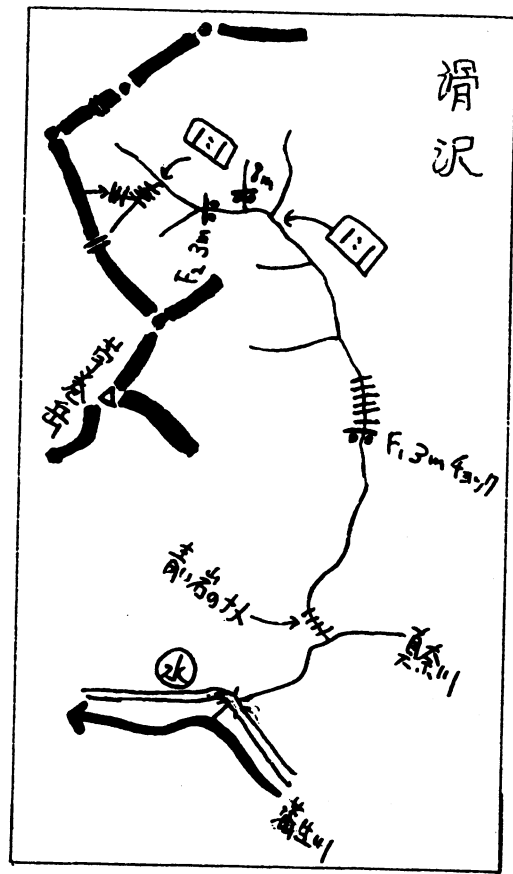
八木沢の遡行を終えた後、尾根で休憩もとらず、方向を定めて滑沢めざして下降に移る。10分とかからずに沢に入り、すぐ水が出てくる。右支沢が合流するまで、沢幅が狭くナメで、滑り台のような所もあり、本当に滑ってしまった。

松沢君がサンショウウオとそのオタマジャクシをみつけた。サンショウウオのオタマジャクシを見るのは初めてで、カエルの子よりも尾が太く、ずんどうである。F<sub>2</sub> は右岸の木につかまって下る。

「まだか、まだか」と思いつつ下り、やっと二俣につく。ここから真奈川出合まではチョックストーン滝があるだけ。単調でかなり長く感じた。出合は青い美しいナメとなって、真奈川に注ぎ込んでいた。

(記・

[タイム] 尾根(10:40)→右俣出合(11:35)→真奈川出合(12:40)



### 塩沢川支流笠倉沢 1995年7月30日

立安沢右俣の遡行終了後、尾根で小休止。尾根からはブッシュにつかまりながら下ると、ほどなく沢に出る。ここから先は傾斜がきつく、ブッシュも途切れ途切れで、簡単には下降できない。ザイルを3回連続で使用し、ナメや滝を慎重に下降する。雪渓を越え先に進むと10m滝で、またしてもザイルを使用する。この後の滝はいずれもナメ状で、慎重に下降した。

結構高度を下げたにもかかわらず、またしても雪渓の出現。この頃より今日の行動が長く感じられ、だんだんいやになるが、行けども行けども終わらない。

その後の滝の下降は、脇のブッシュを使って下る。やがて5mの滝。ゴルジュ模様で、今日最後のザイルの世話となる。あとは長い林道歩きとなった。

(記・

[タイム] 尾根(12:00)→塩沢川出合(14:40)